



議会だより

# わが町



町の人口

平成30年7月1日現在

男性	3,271人
女性	3,283人
合計	6,554人
世帯数	3,252戸



惜しくも準優勝の男子バレー



男女とも3位と健闘したバドミントン

第72回県民体育大会大島地区大会  
沖永良部で開催されたバドミントン競技と男子バレーボール競技

## 第140号

### 主な内容

- 可決された議案事項等
- 一般質問
- 議会の動き
- 第61回奄美群島市町村議会議員大会

2P

3P

13P

14P

## 平成30年第2回定例会



議案番号	件名	議事結果
報告 1 号	繰越明許費に係る繰越計算書について	報告
報告 2 号	繰越明許費に係る繰越計算書について	報告
承認 1 号	専決処分の承認を求めることについて (和泊町税条例等の一部を改正する条例の制定について)	承認
承認 2 号	専決処分の承認を求めることについて (和泊町国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について)	承認
承認 3 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町一般会計補正予算 第 7 号)	承認
承認 4 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町国民健康保険特別会計補正予算 第 4 号)	承認
承認 5 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町介護保険特別会計補正予算 第 4 号)	承認
承認 6 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町後期高齢者医療特別会計補正予算 第 2 号)	承認
承認 7 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町下水道事業特別会計補正予算 第 3 号)	承認
承認 8 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町農業集落排水事業特別会計補正予算 第 4 号)	承認
承認 9 号	専決処分の承認を求めることについて (平成 29 年度和泊町奨学資金特別会計補正予算 第 2 号)	承認
議案 2 4 号	和泊町いじめ問題調査委員会条例の制定について	原案可決
議案 2 5 号	和泊町報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 2 6 号	和泊町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 2 7 号	和泊町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 2 8 号	和泊町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について	原案可決
議案 2 9 号	和泊町過疎地域自立促進計画の変更について	原案可決
議案 3 0 号	和泊町辺地に係る総合整備計画の変更について	原案可決
議案 3 1 号	物品購入契約の締結について	可決
議案 3 2 号	物品購入契約の締結について	可決
議案 3 3 号	物品購入契約の締結について	可決
議案 3 4 号	工事請負契約の締結について (町営住宅へーバル団地 3 号棟改修工事)	可決
議案 3 5 号	平成 30 年度和泊町一般会計補正予算 (第 1 号) の議決について	原案可決
議案 3 6 号	物品購入契約の締結について	可決
陳情 2 号	教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度 2 分の 1 復元、複式解消をはかるための、2019 年度政府予算に係る意見書採択の要請について	採択
発議 1 号	教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充に係る意見書について	可決
	議員派遣について	可決
	議会運営委員会の閉会中の継続調査申出について	可決
	特別委員会の閉会中の継続調査申出について	可決
	各常任委員会の閉会中の継続調査申出について	可決
以下余白		

# 一般質問

## 町民に代わって行政を問う

平成30年(6月)第2回議会定例会

### 少子高齢化対策について



松村 絹江 議員

#### 少子高齢化対策について

**問** 平成30年第1回定例会でも質問したが、少子高齢化対策、子育て支援策として出産祝い金の支給は不可欠と強く思うが、どのように考えているのか。

**答** 平成30年第1回定例会で答弁したが、現在、子育て支援に係る給付事業として、病児等保育事業、多子世帯への保育料の軽減、中学校卒業年度までの子ども医療費の助成、ひとり親世帯への医療費の助成、島外で医療等を受ける必要がある児童及びその保護者への旅費の一部助成、障害児支援施設入所児童施設見舞金等の施策で、子育て家庭への支援を行っている。

の世帯への出産祝い金の支給よりは、子育て世帯への継続的な支援を充実していくことが、実質的かつ効果的であり、より多くの子育て世帯の経済的負担が軽減されるものと考えている。

#### 問

わが国を含む多くの国で、高齢者は65歳以上と定義されている。また、本町の長寿クラブ加入年齢は60歳以上となっていて、高齢者の定義が現状に合わない状況が生じていると思われるが町としてはどのように考えているか。

#### 答

高齢者の定義については、国連の世界保健機関では65歳以上の人のことを高齢者として、国際的に比較ができやすいように基準としており、わが国においても、一般的に65歳以上の人を高齢者といい、65歳以上から74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者として、総務省の人口推計の高齢者率として示され、医療や福祉の分野に

においても各種施策の基礎データとして活用されている。本町の長寿クラブ加入年齢については、現在60歳以上となっており、これは国、県が示している老人クラブの加入年齢に準じているところで、いくつかの集落では、クラブ活動ができていない状況にある。

町としては、これまで経験したことのない人口減少社会、高齢社会に入っていく中、様々な社会的課題に対応するためには、高齢者の地域活動等、社会との関わりをもつ活動が益々重要になると考えるので、個人個人が能力を十分に発揮できる環境づくりを進める必要がある。

#### タランおきのえいびの設備等について

**問** タラン利用者の要望として、窓ガラスに日焼け防止用の紫外線対策はできないか。

#### 答

大規模な修繕は、指定管理者と協議し、年度ごとに予算の範囲内で修繕を行うこととしている。

プール窓の紫外線対策については、今年度の設備補修要望箇所のひとつとして、指定管理者から話しをいただいているが、他に緊急で対応しなければならぬ設備補修箇所がいくつかあるので、指定管理者とも十分に協議を行いながら、必要性を判断したい。



#### 問

現在故障中のプール設備等の補修計画は、どのようになっているか。

#### 答

毎年度、当初予算編成前に指定管理者と協議を行い、年次計画で補修を進

めていくことを確認しながら緊急性の高いものを中心に予算化している。

中でも、緊急性の高いバツクマツサージろ過機ポンプ、配管の補修とボイラー内の洗浄については、早急に作業を進めたいと考えており、アトラクションポンプについても、現在21機が故障中であるが、今年度は2機を交換予定である。

この他、日焼け防止用の紫外線対策をはじめ、他の設備の修理、機器等の取替えについては、指定管理者と協議しながら、順次進めていく。

**問**

タラソ会員の増強や利用者への満足度を上げるため、付加価値的なサービス等は考えてないか。

**答**

平成29年度のタラソの年間入館者数は、前年度から約2,600人増の54,207人となっており、収入も前年度より増えている状況だが、依然として厳しい経営状況に変わりはない。タラソおきのえらぶ内にあ

るトレーニングジムの管理・運営が、今年度から移管されたことにより、運動指導等と合わせたメニュー化で、利用者の皆様へのサービス向上が期待されることである。今後も、職員のマナーとスキルアップ向上を図り、パーソナル指導等にも取り組みながら、健康増進施設として質の高いサービスが提供できるように、町としても支援していきたい。

**「えらぶゆり」の有効活用について**

**問**

「えらぶゆりの島グラウンドゴルフ大会」は島外からの参加者も多く、経済効果等も期待されているイベントである。えらぶゆりの普及や大会イメージ等も考慮して、会場周辺にえらぶゆりの植栽をして大会を盛り上げる演出等はできないか。

**答**

「えらぶゆりの島グラウンドゴルフ大会」は、商工会が主催するイベントであり、町においては、4月に開催された大会時には、開催

に合わせて、表玄関となる空港や港に、プランター等による「ゆり」を飾り、「えらぶゆりの島」のPRを行った。グラウンドゴルフ大会会場周辺に、ゆりの植栽をすると、持続的に適切な管理作業等が行えない。

商工会からの提案等があれば、笠石海浜公園で植栽するプランターを、大会の開催に合わせて貸し出しすることは可能であると考えているので、大会主催者との協議を通じて対応させて頂きたい。

**問**

来年度のフラワー都市交流の総会は、本町での開催が予定されており、島外から多くの関係者の来島が予想される。来年度に向けて、花いっぱい運動やメイン会場等の花木やえらぶゆり等の植栽の計画はどのように考えているか。

**答**

平成31年度にフラワー都市交流連絡協議会総会が本町で開催されるが、参加者の皆様に喜んで頂けるように、町のシンボルフラワー

である「えらぶゆり」の前で、記念写真を撮影できるスポットを設置する予定である。その他、例年10月中旬頃に、えらぶゆりサポーター等の協力により、笠石ゆり園でゆりの球根植え付けを行う計画だが、その際にプランターにも植栽を行い、花の開花時期に

**観光客の動向及び各種施策等の進捗状況は**



川畑 宏一 議員

**観光振興について**

**問**

「西郷どん」放映等による効果で、観光に関する追い風が吹いている状況にある。観光客の動向及び各種施策等の進捗状況はどのようになっているか。

**答**

観光客数は平成23年から26年には24,000

人台でしたが、28年には約25,900人、29年には約26,700人と増加傾向にある。大河ドラマ「西郷どん」のロケ地として選ばれ、多くの島民や関係者が携わり撮影に臨み、高まりつつある島民の機運をさらに向上させるため、「えらぶの西郷どんガイドブック」制作、ドキュメンタリー映像作成、絵画展や書道展、おもてなし研修会やまち歩きガイドの養成等を実施してきた。そうした取り組みに対し、全国からの問い合わせも多く、1万部印刷したガイドブックは増刷も検討中





であるほか、プロモーション映像はMBC、RBCでも放送された。また、西郷南洲記念館のドラマタイアップ企画展、大河ドラマ村の整備を進めており、6月24日には、大河ドラマ「西郷どん」のパブリックビューイングを企画している。

西郷隆盛上陸の碑の周辺整備も予定しており、観光資源を有効活用できるような事業を実施していく。

**答**

JACの株主総会等でダイヤ変更の要望を続けてきたが、改善が図られていない。また、奄美群島観光物産協会の調査によると、LCCを利用して奄美大島を訪れた観光客のうち沖永良部島にも訪問している人の割合は0.84%と、僅かであり、こうした客層へ施策を講じる効果への期待は薄いように感じられる。

一方、7月1日から、奄美群島アイランドホッピングルートが開通し、那覇〜沖永良部間の飛行機が就航する。

平成29年度の沖縄県への入域観光客は約958万人と言われ、LCCを含め、那覇空港へのアクセス手段も便数も多様であるため、そこから沖永良部島へ足を伸ばす観光客の増加が期待される。そのようなことから、沖縄への観光客をターゲットに、本町への

誘客を集中的に実施していくことが、効果的な施策になるのではないかと考えている。今後は、那覇市にて奄美群島広域事務組合主催のイベントを予定しているほか、沖縄観光コンベンションビューローを始めとした関係機関を訪問し、連携・協力体制を構築出来るようトップセールスを実施する予定である。

**問**

ごみ出しやポイ捨て等の、ごみに関するモラルの低下が著しく問題となっているが、どのような対策を講じているか。また、観光や教育の観点も踏まえ、ポイ捨て防止条例等を策定する考えはないか。

**ごみ対策について**

**問**

平成10年度から指定袋を導入し、徹底したごみの分別収集や「ごみの持ち帰り運動」を推進し、ごみの減量化や散乱防止に努めている。しかし、一部の心ない人たちのポイ捨てや不法投棄が後を絶たない。

**答**

平成10年度から指定袋を導入し、徹底したごみの分別収集や「ごみの持ち帰り運動」を推進し、ごみの減量化や散乱防止に努めている。しかし、一部の心ない人たちのポイ捨てや不法投棄が後を絶たない。

防災無線やサンサンテレ



びでの啓発や看板設置に加え、学校における環境教育の充実や、家庭における取り組み、関係機関と連携したマナー、モラルの向上及び道端や

畑等の草を刈って、捨てにくい環境を作ることでも重要であり、地域住民の協力が重要である。また、悪質な不法投棄に対しては、警察に通報し、投棄者の特定や再発防止に努めている。豊かな環境を後世へ伝えていくためには、町民が一体となり、自分達の町は自分達で守るという共通認識のもと、ごみのポイ捨てがないまちづくりを推進しなければならぬ。そのためにも条例の制定は必要だと思われるので、関係機関と協議して取り組んでいく。

**行政サービスの向上について**

**問**

町民の福祉向上と町の発展のため日々努力している職員の方々が、更なる町民満足度向上を図る上で改善しなければならないと感じている課題はどのようなものがあり、対策をどう講じているのか。

**答**

行政の目標達成のため、解決するのが職員の使命だと考えている。先例、前例を大切にしながらも、とらわれることなく、より良い結果を導きだすための方策を考えるが、そのためには職員自身が情報収集能力を高め、広い視野を持ち、確実な行政経験を積むことが必要となる。同時に、住民の方々と職員間でコミュニケーションを密にすることが最も重要なことである。

現在建設中の新庁舎は、各課・各担当が情報交換や連携がし易い造りになっており、業務遂行能力が向上し、住民の満足度向上につながるもの

### 農業振興と教育行政について

と確信している。  
今後、満ちが得られるよう、職

員一丸となって全力で業務の  
執行に取り組んでいく。



前 利悦 議員

### 農業振興について

#### 問

農業生産額は、3年連続の60億円超えが見込まれていたが、サトウキビの低糖度、バレイシヨの価格の低迷と農家にとっては、大変厳しい状況にある。

バレイシヨ価格の低迷の原因は何なのか。今後の対策は、どのように取組んでいくのか。

#### 答

北海道産バレイシヨの生産が平年並みで市場に回ったことと、天候に恵まれて、沖永良部・徳之島・他の県内産ともに大

豊作となった等がその大きな要因と考えられ、今後の対策としてリレー出荷・計画出荷の励行と、相対出荷を行うことで価格安定を目指すとしている。



#### 問

バレイシヨが選別機の処理量を大幅に超えたため、出荷場の屋外にブルーシートをかけて保管されている。そのため腐敗等が進み、選別で除外された品が増加していないか。また腐敗等が進み、市場での評価も悪くなり、

価格低迷の要因になってないか。今後も生産量増加に伴い、荷受調整が想定されるが、関係機関等と協議して、農産物保管倉庫の新設の考えはないか。

#### 答

保管状況が価格低迷の要因ではないかということについては、J A和泊や園芸振興会に、これから究明をお願いしたいと考えている。保管倉庫については、J A和泊の輸送コスト支援事業の生産振興計画によると、基盤整備費の一部を積立しており、今後、保管倉庫建設を計画しているようなので、連携を図りながら側面からの支援を継続していく。

#### 問

生産組合への農機材等の導入時の補助事業は以前からあるが、生産者個人向けのトラクター等導入時の補助事業はないのか。

#### 答

平成28年度から「産地パワーアップ事業」があり、平成29年度の導入実績として、ブームスプレイヤと一体的に整備することでトラクターも導入されている。

#### 問

里芋やニンニク栽培等に使用されるマルチは、産業廃棄物として町からの処理助成があるが、生分解性マルチの購入助成は考えられないか。

#### 答

J A和泊青年部の提案により、サトイモ生産における生分解性マルチの試験が行われており、労力の省力化・産業廃棄物処理経費の削減、生産性についても効果を得られたようである。

しかし、生分解性マルチの価格がポリマルチの3倍程度で高額であることが課題となっており、J Aでは今期作のサトイモで実証・分析し、実用に向けて取り組んでいくとしている。

町としても、J Aと連携を図り、より効率的で生産性が高く環境にやさしい農業の推進に努めていく。

#### 問

本町の農地基盤整備率はいくらか。また費用対効果をどのように試算しているか。

#### 答

区画整理が要整備量2,320ヘクタールに  
対し、1,540ヘクタールの  
66・4パーセント、畑地かん  
がい整備が要整備量1,705  
ヘクタールに対し、1,073  
ヘクタールの62・9パーセン  
トである。

効果項目として、反収増加による作物生産効果、農産物の品質や商品価値の向上の品質向上効果、機械化等による省力化の営農経費削減効果、維持管理節減効果などがあり、それぞれの効果項目に対し、工種別に試算している。

#### 問

実験農場の運営について、時代のニーズにあった新たな取り組みは、どのように考えているか。また、圃場や施設等を農家に貸し出す計画はないか。

#### 答

実需者ニーズの高い八重咲き品種の選定及び栽培について取り組んでいる。

また、農家の担い手を対象として、圃場や施設等について、賃貸借契約を交わしたう

えで貸し出しており、営農指導も行う育成機関としても取り組んでいる。

**問** 6次産業化への取組みには、どのような助成があるか。

**答** 現在、町として、「あざまち元気活動支援補助金」を整備しており、これから募集する予定で、予算総額200万円を当初予算で計上している。

**問** 分掌事務の移管により総務課から企画課へ移管されたが、その意図と目的は何か。

**答** 全国に10ヶ所ある郷土出身者の組織「沖洲会」の窓口や観光・商工・交流部署も企画課で担当していることから、ふるさと納税に関する情報発信が円滑に行えることが目的である。

**問** 過去2年間の寄付金総額、件数の推移はどのようになっているか。

**答** 平成28年度は、409件1,520万円、

平成29年度は、742件8,681万9千円となっており、全国から多くの温かい御寄附をいただいた。

平成30年5月末現在の寄附金額については、寄附件数が193件、寄附金額は1,690万3千円となっている。

**問** ふるさと納税では、住民税と所得税が控除されるが、どのくらいの額がいつ控除されるのか。

**答** ふるさと納税の大きなメリットは、地域を代表する特産品などがお礼の品として送られてくることに加えて、寄附金額から自己負担額の2,000円を除いた金額が税金から控除されることである。

例えば、10,000円を寄附した場合、自己負担額2,000円を除く8,000円が、所得税及び住民税から控除される。控除の内訳は、所得税が800円、住民税が7,200円となる。

控除の時期については、平成30年1月から12月までの間に、10,000円の寄附をした場合、平成31年3月15日までに確定申告を行うと、平成30年分の所得税が800円還付され、平成31年度分の住民税が7,200円控除される。

**問** PR活動はどのようにしてきたか。また、今後どのように取組んでいくか。

**答** 郷土出身者への制度周知や返礼品の充実、ふるさと納税サイトの有効活用、返礼品事業者との連携強化等が功を奏し、平成29年度は、28年度に比べ、寄附件数は1.8倍、寄附金額は5.7倍と大幅な伸びを見せている。

おきのえらぶ島観光協会と連携した、新たな特産品の

掘り起しや、お客様ニーズ調査、来島者の動向データを分析し、郷土出身者をはじめ、訪れた観光客や全国の沖永良部ファンの皆様に、本町のふるさと納税制度をPRしていく。

**問** 昨年本町の学校で、教師と生徒間の信頼関係が構築されていない状況があったが、現在はどうのような状況か。

**答** 現在、当該学校において、教師と生徒との信頼関係が構築されていないという報告は受けていない。学校訪問や授業参観、生徒の状況などからも教師と生徒との信頼関係を維持しながら教育活動が進められている。

**問** 昨年度の各学校の不登校件数は何件か。また、現在はどうのような状況か。

**答** 昨年度の不登校件数は1校、7件でした。そのうち4件は当時中学3年生でしたので現在卒業している。あとの3件については、1件は不登校が続いている。あとの2件は、病気での欠席が多く見られる。今年度新たに1件の不登校が発生したので、中学校は現在1校、2件の不登校となっている。

**問** 昨年本町の学校で、教師と生徒間の信頼関係が構築されていない状況があったが、現在はどうのような状況か。

**答** 現在、当該学校において、教師と生徒との信頼関係が構築されていないという報告は受けていない。学校訪問や授業参観、生徒の状況などからも教師と生徒との信頼関係を維持しながら教育活動が進められている。

おきのえらぶ島観光協会と連携した、新たな特産品の

**ふるさと納税のご案内**  
「ゆりのふるさと和泊」を応援してください。

**寄附金の活用事業**  
ご支援いただいた寄附金は、次に掲げる事業等の推進に活用します。  
(1) 和泊と島を守り育てる事業 (2) 和泊の子どちちを育む事業 (3) いさいき健康づくり事業 (4) 元氣あまち和泊をつくる事業

和泊町役所  
〒891-9102  
高松島南大島郡和泊町和泊 10 番地  
和泊町役所総務課「ふるさと納税」係  
TEL: 0997-92-1111 FAX: 0997-92-3351  
メール: furusato@town.wadomari.lg.jp  
http://www.town.wadomari.lg.jp

和泊町公式キャラクター  
ワリリー

ごみ対策について



池田 正一 議員

海岸漂着ごみ対策について

**問** 海岸における漂着ごみの対応として、回収箱の設置等の対策はどのようになっているのか。

**答** 平成30年度海岸漂着物等地域対策推進事業の内示をいただいたので、和泊町シルバー人材センターによる回収・処理業務委託を行っている。(8海岸・年2回) また、回収箱の設置については、3つの海岸に設置の準備を進めている。(与和の浜湾門、笠石) 海岸にきた方々に、漂着物を回収していただき、漂着物のない海岸を目指していく。

ゴミの不法投棄対策について

**問** 半崎やフーチャなどの景勝地において、空コンやペットボトル等が草木の中に不法投棄されているが、どのような対策を検討しているか。

**答** ごみの不法投棄やポイ捨て対策としてサンサインテレビや防災無線等をおおして啓発を行っているが、効果が見えてこないのが現状である。

近年、大量のごみの不法投棄については、ほとんどなくなりましたが、依然として空き缶やペットボトル等のポイ捨てがなくならない。対策としては、看板設置や辛抱強くモラル向上を図るべきだと考えている。また、景勝地の草木等の伐採もごみを捨てにくい環境づくりには必要なことだと思っております。町民や関係機関と連携を図り、環境美化活動やモラル向上のための啓発活動に取り組んでいく。

国頭小学校のガジュマルについて

**問** 本町の観光スポットでもある国頭小学校の「日本一のガジュマル」が、若葉が生い茂らず弱っているが、樹勢回復を図る対策や保存に向けてのより効果的な施策を検討できないか。

**答** 学校の保護者で組織する「おやじの会」の主催で、根を保護するために根元に茅を敷き、2年に1回は栄養補給のため堆肥を播くなど



ど管理に努めており、現在のところ樹勢は維持できている。また、PTA役員が、害虫駆除のために薬剤を散布したり、児童が周囲の清掃・除草を行うなど環境整備に努めている。さらに、必要に応じて、おやじの会が中心となり適正な成長を維持するため樹木剪

畑地かんがい事業等について



東 弘明 議員

畑地かんがい事業等について

**問** 今年度は、空梅雨の傾向にあり水不足が懸念されるが、水資源をどう確保していくのか。

**答** 本町の各集落にあるため池に湧水や雨水を貯水しているのが現状であり、水資源を確保するために、新

定を行っており、最近では平成29年1月に保存会立会いの下、実施している。今後も、引き続き保護者や地域の方々を主体として管理に務めて頂きたいと考えており、行政と致しまして町指定の保存樹として、「日本一のガジュマル」の管理を支援していく。

たに、ため池等を新設する計画は、今のところない。

ため池の貯水量は5月末時点で、貯水率が約76パーセントとなっており、昨年の貯水率と比較しても大きな差はない状況にあるが、昨年の様な干ばつに対応するためにも、現在実施されている沖永良部地下ダム工事の早期完成により安定的な農業用水が確保されることに期待している。

**問** 国頭字等のため池に、シート破損やフェンスの腐食等で危険な箇所が多々見受けられるが、どのような対策を講じるのか。

本町の各集落にあるため池に湧水や雨水を貯水しているのが現状であり、水資源を確保するために、新

**答**

平成29年の第3回定例会及び第4回定例会で答弁したが、国頭字等のため池のシートやフェンスの改修については、農業水利施設保全合理化事業及び土地改良施設維持管理適正化事業により、平成32年度までに計画的に改修工事を実施していく。また、ため池のフェンスやシートの小規模な補修は、多面的交付金事業の予算により、各組織の水土里サークル活動で実施が可能であり、各組織への助言等も行っていく。



**問**

平成29年第3回定例会で、畑かんの移動式スプリンクラーを埋設型に替え

る更新事業については、ニーズ調査等を実施し検討すると答弁があったが、その後の経過はどのようになっているのか。

**答**

過去に整備した事業実施地区の調査を実施し、関係機関と協議・調整を図りながら、事業化に向けて取り組んでいる。

**問**

逢久、塩道地区の畑かんの計画は、どのようになっているのか。

**答**

地区調査を実施し、関係機関と協議・調整を図り、平成35年度を目処に事業採択に向けて取り組んでいる。

**農業施設整備について**

**問**

本年度から軽量鉄骨ハウスが導入されているが建設時の補助事業導入の要件である対象品目は何か。また、単価はどれくらいか。

**答**

鹿児島県園芸施設ガイドブックによると、対象品目は、野菜類でトマト、ピーマン、軟弱野菜、果樹類でマンゴー、花き類では、キク、ソリダゴ、ユリ等となっております。

り、農業創出緊急支援事業で導入するためには3名以上の組合員で組織し、同一の品目を栽培する必要がある。なお、単価については、1,000㎡(二反)あたり約1,200万円となっております。

**輸送コスト支援事業について**

**問**

離島から県本土までの輸送支援はあるが、県本土から離島までは支援がない状況であり、諸物価の価格差に大きな隔たりがあるが、次期奄振法での支援事業の計画は、どのようになっているか。

**答**

奄美地域に限らず、全国の離島が抱える問題であることから、県消費者行政推進室が中心となり、離島物価問題懇談会を開催し、本土との地域差指数に触れ、物流コスト低減に向けた離島地域一体となった取り組みの必要性や支援の拡充を訴えている。

輸送コスト支援事業については、現在、本島から本土への農林水産物の移出に係る支

援及び水産物の沖縄本島への移出に係る実証事業が行われている。奄振法の延長に向けては、昨年度、鹿児島県において各種団体意向調査や群馬県・事業所等へのアンケート調査、意見交換会等を実施したうえで「奄美群島振興開発総合調査報告書」をまとめたところであり、鹿児島県及び奄美群島広域事務組合を中心に、奄美群島12市町村が一体となって取り組んでいる。

**「奄美群島振興開発総合調査報告書」**

には、輸送コスト支援について、加工品も含めた移出コスト支援及び農林水産物の生産に係る原材料等の移入コスト支援について検討がなされた結果、盛り込まれているところであり、引き続き強く要望していく。

**実験農場について**

**問**

現在はどのような取り組みがされているか。また、今後の方向性をどう考えているか。

**答**

現在、ユリ球根、ニンニク、キク等の種苗の

供給と土壌分析に基づく資材投入指導の実施や、生産者のリスク回避のためのキク等の新たな品種の実証栽培を行っている、栽培圃場において関係機関及び生産者を募集した、現地検討会を実施している。

また、生産農家の抱える技術的な問題や病害虫対策に柔軟に対応した実証試験を行うほか、関係機関との共同試験にも取り組んでいる。

**親子ふれあい広場について**

引き続き、関係機関と連携しながら儲かる農業を実現するために、課題解決に向けて全力で取り組み、本町農業の発展に寄与していく。

**問**

知名町のフローラルパークは、遊具器具等が充実しており、休日等には本町の親子連れが、多数訪れている状況である。本町の公園も、子育て支援や交流等の観点から、遊具等の充実を図り、親子連れが集えるふれあい広場の環境整備は出来ないか。

**答**

本町の公園は地域全体で子どもを育てる一環

として整備されており、各遊具の維持・管理は各集落の責任で行うのが原則となっている。

現在、本町で遊具が充実している公園は、ヤーシチ公園である。遊具などを増設することは事業を利用することで可能と考えるが、現在の公園の敷地では新たな遊具を設置するにはスペースが狭く難しい。

遊具等が設置してある公園等については、安全に利用できるように定期的に遊具の点検を行っており、休日等には、親子連れで各公園へ出かけてみてはと考えている。



**介護老人入所施設について**

**問** 現在の介護老人施設等の入所待機者は、何名いるか。

**答** 現在の介護老人施設等の入所待機者は現在、ほぼ全施設が定員いっぱいの利用者を受け入れているところであり、申込みを受けて入所待ちの方は合計で約150名となっている。

ただし、このなかの多くの申込者が複数の施設を同時に申し込んでいるケースや既に他の施設に入所中で、別の施設への申込みを行っているケースがあり、正確な実数については、把握ができていないが、約50人程度ではないかと考えている。

**要介護状態の重度化対策として、特別養護老人ホーム等の、介護老人入所施設の増床計画等は、今後どのように考えているか。**

**答** 平成30年3月時点において、介護保険における本町の入所系サービス利用

者の割合は、要介護認定者数の約4割を占めている。

国の動向を踏まえ、高齢者や要介護者の意向調査等も行いながら計画策定を行ったが、本計画では、要介護者が可能な限り住み慣れた地域で暮らせるよう、「通い、訪問、宿泊」のサービスが包括的に利用できる「小規模多機能型居宅介護事業所」の設置を新たに見込んでいるところであり、特別養護老人ホーム等の増床計画は見込んでいないが、今後の介護サービスの利用状況、及び介護保険料等も考慮しながら、次期計画に向けて検討していく。



**農業の生き残り戦略は**



桂 弘一 議員

**農業政策について**

**問** 農家戸数が減少し続ける縮小時代の中で、農業立町として、どのような生き残り戦略を考えているか。

**答** 平成30年度施政方針にも明記してあるが、「温暖な気候を活かした安心・安全な和泊農業の構築」の為に国・県の施策に柔軟且つ積極的に対応し、糖業・花き・野菜そして畜産の四本の柱で耕畜連携を図りながら、農家人口減少にも対応できうる、離島における高度持続的農業の構築を継続して行っていく。

**問** 戦術的な具体策として、どのような施策を積み上げていくのか。

**答** 足腰の強い農業の取り組みとして、自然災害等に揺るがない施策を行っており、畑かん営農推進、農地集積の取り組み、機械化及び農作業受委託の推進、法人化の推進など関係機関と連携を図り、今後もさらに取り組んでいく。

**問** 農家の経営安定対策として、新たな収入保険制度が創設されたが、どのような内容か。また、有効性については、どのように考えているか。

**答** 従来の共済保険が自然災害による収量減少を対象とすることに對して、「市場価格の低下」等まで補償対象としている。また、品目についても基本的には畜産以外の全ての作物を対象とすることとしている。有効性については、特に今まで共済に加入できなかった花き生産農家にとって、経営安定及び補填の大きな支援策になると考えている。



シルバー人材センターによるシマアザミ栽培

**問**

アザミ等、新規作物に挑戦する農家に対する支援策として、その可能性を探る目的で調査はできないか。

**答**

現在、新規作物として島アザミの栽培をシルバー人材センター等が行っているが、特長として塩害に強く、農薬散布がいらぬ、さらに株出し栽培で3年程度で、収穫が6回可能などの優位性があり、北海岸の塩害を受けやすいな地区に栽培適地があると思われるので、今後調査を行いたい。

**学校運営について**

**問**

平成30年度第1回定例会で学校運営協議会設置に向けての調査、検討をする答弁があったが、進捗状況はどのようになっているか。

**答**

教育委員会では、学校運営協議会制度の導入・設置に当たっては、各学校区や地域の状況を踏まえて、慎重に検討をしていかなければならないと考えている。

現在、学校運営協議会について、先進校の資料を取り寄せるなどしてそのメリットとデメリット、実施状況の成果と課題の把握に努めている。

電話での聞き取り等の情報収集をこれまでも行っているが、本年8月の市町村教育委員会委員研修会に合わせて、学校運営協議会実施校（コミュニティ・スクール）を視察し、実施校の実施状況や意見を直に聞くなどしていきたい。これらの視察や研修のもとに、今後、学校運営協議会制度について時間を設け

て、検討をしていく。

**問**

学校運営協議会設置に至るまで、最短でどれくらいの期間を要するか。

**答**

実施校視察や各種資料の収集に努め、和泊町内の各学校区や地域の実態、他市町村の動向も参考にしながら、

**農業振興と防災減災について**



中田 隆洋 議員

**農業振興について**

**問**

本町農業政策の複合経営の基本的な考えの中で、価格の安定している里芋は基幹作物の一つであるが、近年、種芋の確保が困難になっている。そこで、自家種芋の確保の推進はもとより、島内において優良種芋を生産し、農家へ供給することはで

から、設置の可否を含めて、研修・研究を進める。



きないか。

**答**

横川地区及び霧島地区農家に委託している里芋優良種芋の生産について、5月の現地調査報告で高齢化と疫病等により、今年度も要望している量を確保できないと報告を受けている。

J A和泊において、自家種芋の確保を啓発しているが、島内の優良種子生産については、種子単価や疫病発生等の問題がある為に現状では困難であり、今後、県経済連野菜係と連携し、新たな種場産地の確保を模索していく。

**環境保全について**

**問**

老朽化したし尿処理施設の改修、更新には多額の費用が必要になることが懸念されるが、現在の浄化センターにおいて、汚泥の前処理施設を整備することで、汚泥を和泊浄化センターで受け入れ、下水と一元的な処理を行い、維持管理等のコスト削減ができないか。

**答**

汚泥を浄化センターで受け入れ、下水と一元的な処理を行った場合、維持管理等のコスト削減は可能であるが、導入にあたっては、事業計画の変更申請が必要であり、町内のし尿及び浄化槽の状況や汲み取り量、公共下水道区域の流入量や今後の予測等の調査が必要である。

有機物供給センターは、建設から38年経過しており、施設の老朽化が進み設備・機器の補修等が増大し、財政負担が懸念されることや効率的な処理を図るために、新たな施設整備が求められている。

これまで、し尿処理施設建

設合同検討会を両町の関係機関で構成し、建設費及び維持管理費の削減を目標に沖永良部全体の事業として1島1施設の計画の協議をしてきたが、昨年、知名町がし尿処理の前処理施設を建設したため、協議が中断されている。事業導入までの間は、現施設の長寿命化を図るために、下水接続可能な地域の接続の推進、し尿処理場への投入量の減少と現状の施設の補修等で、し尿処理施設の維持管理に努める。现阶段では、前処理施設整備計画はない。



防災減災について

問

想定を超える災害に対し町民の防災レベルの向上をどう図っていくか。また、被災後の物資の搬入拠点

等の整備、若しくは民間事業者との協力協定を進める必要はないか。

答

昨年は、沖永良部台風から40年の節目を迎え、毎年9月9日の和泊町防災の日を実施している「和泊町総合防災訓練」を、午前・午後の2部構成で実施したところ、約300名の町民の参加があった。また、「あしびの郷・ちな」において鹿児島気象台による、「県民防災講演会in沖永良部」が開催され、多くの島民の参加があった。昨年度の区長会視察研修では、熊本地震や九州北部豪雨が発生した被災地を視察し、当時の様子や現状について研修を行った。

昨年度から各字公民館にAEDを設置し、各字においてAED等の講習会なども実施している。様々な「訓練、講演会、講習等」をとおして、各字区長を主体とした自主防災組織や、消防団員を中心に、町民の防災レベルの向上を図っていききたい。

被災後の物資の搬入拠点

の整備、若しくは民間事業者との協力協定の推進については、被災後の早期復旧を実現させるための検討課題である。町の所有する既存の施設を含め、民間事業者との協力協定についても、今後協議していききたい。

教育振興について

問

我が子を「教育のまち和泊町」で育てたいと思っただけのような政策の一つとして、少人数学級の導入はできないか。また、高校進学時、島内の約3割の生徒が島外に進学しているが、両町関係機関共同で対策を講じるべきだと思いがどうか。

答

少人数学級の導入については、中規模校である和泊小学校において、指導方法改善の加配教員を活用し、ひと学年の児童数が多い学級を含めて、少人数グループでの学習を進めたり、学年内で習熟に応じた少人数グループを作つてより個に応じた指導を進めたりしている。和泊中学校では、学習指導加

配教員を活用して、数学科などいくつかの教科について習熟度別少人数指導を進めている。このように、本町の学校においては、指導方法の加配教員や学年での複数教員による授業の実施により、少人数学級の導入に値する学習形態の機能を果たしていると考えている。

沖永良部高校の教育環境の充実と魅力ある学校づくりを目的とした「沖高教育振興事業」を両町で支援している。また、昨年度は沖高と両町が連携して、中学生とその保護者を対象に進路等に関するアンケート調査を実施し、対応策を検討した。調査結果等を元に「沖高の魅力を伝えるDVD制作」や「中・高生合同リーダー研修会」の実施等を計画していて、経費については本定例会に補正予算を計上している。

今後とも、島内の中学生及び保護者に対し、沖高の良さや魅力を発信するとともに、沖高の充実・発展にも協働して取り組んでいく。

議会を傍聴してみませんか。

議会は、町の予算や身近な問題について話し合う大切な場です。  
定例会は、年4回(通常3・6・9・12月)、また必要に応じて臨時会を開催することもあります。  
本会議は公開されており、どなたでもその様子を見ることができます。お気軽に議事堂にお越しください。お問い合わせは、議会事務局(92-2569)まで

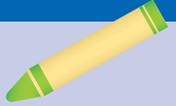


## 議会の動き



3月11日	第37回花の島沖えらぶジョギング大会、第38回フラワーフェスティバル
3月13日	各中学校卒業式
3月21日	平成29年度沖永良部警察署送別会
3月22日	各小学校卒業式
	平成29年度和泊町教育委員会・校長会・教頭会合同送別会
3月23日	農業農村整備事業関係機関合同送別会
4月2日	辞令交付式
4月6日	各小中学校入学式、全員協議会
4月9日	平成30年度鹿児島県立沖永良部高等学校入学式
4月11日	転入教職員宣誓式(副議長)
4月12日	議会議長・事務局長合同会(奄美市)
4月16日	国営沖永良部土地改良事業促進協議会会計事務監査
4月18日	沖永良部地区農業改良普及事業協議会監査
4月20日	平成30年度農業農村整備事業関係機関合同歓迎会
4月21日	第2回えらぶゆりの島グラウンドゴルフ大会(～22日)
4月26日	平成30年度県政説明会(鹿児島市)
4月27日	平成30年度新旧字区長歓送迎会
4月28日	海のカーニバル2018
4月29日	第36回さつき相撲大会「西郷南洲場所」
5月2日	全員協議会
5月7日	花の島沖えらぶジョギング大会実行委員会
5月8日	鹿児島県離島振興町村議会議長会議長研修会・臨時総会(鹿児島市)
5月9日	鹿児島県町村議会議長会議長臨時総会・議員研修会(鹿児島市)
5月10日	経済建設常任委員会所管事務調査(～12日:霧島市, 曾於市, 鹿屋市)
5月12日	第46回和泊町長寿クラブ連合会総会(副議長)
5月13日	第68回和泊町地域女性連絡協議会総会
5月14日	平成30年度一般社団法人おきのえらぶ島観光協会総会
5月16日	第61回奄美群島議会議員大会
5月18日	平成30年度国営沖永良部土地改良事業促進協議会通常総会
5月19日	平成30年度奄美群島航路対策協議会総会(奄美市)
5月22日	平成30年度奄美群島広域事務組合臨時議会(奄美市)
	平成30年度奄美群島大島紬振興対策協議会総会(奄美市)
	平成30年度公益財団法人奄美群島地域産業振興基金協会評議員会(奄美市)
5月24日	平成30年度沖永良部地区農業改良普及事業協議会通常総会(与論町)
5月26日	平成30年度公益社団法人和泊町シルバー人材センター一定時総会
6月3日	平成30年度和泊町母子寡婦福祉会総会
6月4日	あすの和泊を創る運動推進協議会
6月8日	議会運営委員会、平成30年度和泊町食生活改善推進員連絡協議会総会
6月9日	星槎大学協定調印式

# 第61回奄美群島市町村議会議員大会・議員研修会



第61回奄美群島市町村議会議員大会・議員研修会が5月16日、徳之島町で開催され、群島議会議員及び県議会議員等の来賓者を含め約200名が参加した。

議員大会では、県議会議員より県政報告が行われた後に各地区から提出議題が出され、提案の理由の説明があった後、県議会議員より、提出議題実現に向けてのご助言及びご指導があり、今回提出のあった以下の議題は全て採択となり、今後は群島共通の問題として国や県、関係機関等への陳情活動に展開されていく。

## ○今回提出された議題

- 1 平土野港多機能港湾新設整備について (徳之島町・天城町・伊仙町)
- 2 乳幼児医療費助成事業・ひとり親家庭医療費助成事業・重度心身障害者 (児) 医療費助成事業の窓口無料化について (和泊町・知名町・与論町)
- 3 主要地方道名瀬瀬戸内線の大金久～戸円間トンネルの早期実現について (大和村・宇検村・瀬戸内町)
- 4 国道58号おがみ山バイパスの整備推進について (奄美市)
- 5 喜界空港の整備について (龍郷町・喜界町)
- 6 奄美群島における海岸線の油の漂着について (議長会)
- 7 さとうきびの販売価格・国の政策支援価格の引上げ、基準糖度・基準糖度帯の引下げについて (議長会)
- 8 平成31年度以降の奄美群島振興開発特別措置法の延長について (議長会)

大会終了後は、守屋成一氏による「アリモドキゾウムシ・イモゾウムシの昨日・今日・明日」と題して議員研修会が開催された。



県議会議員による県政報告



自治功労賞を受賞した永野議長

## 編集後記

暑中お見舞い申し上げます。暑い日が続いていますが、くれぐれも体調に留意し、夏バテ、熱中症等に気を付けて下さい。

さて、新庁舎建設も、着々と進んでおります。この新庁舎に恥じぬよう、議員一同襟を正し、町のチェック機関として頑張つていきます。これからも議会活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(文責 池田 正一)



議長	永野 利則
議会報編集委員	
委員長	東 弘明
副委員長	池田 正一
委員	松村 絹江
同 員	川畑 宏一